

第1回 西尾市「はあと」在宅ケアチームカンファレンス
質疑応答

司会(今川)：ここまでのスライド内容(高齢者を在宅でみていくには、多職種での連携が必要であること・超高齢慢性心不全症例についての発表)で質問はありますか。

Q・保健師

訪問リハビリの導入をしているが、訪問看護の導入は検討しませんでしたか？

A・神谷(医師)

ケアマネージャーと相談して訪問看護の導入は見送りました。訪問看護の導入は行った方がよいとも思いましたが、息子さんの意見を尊重したかたちです。

Q・社会福祉士

先生が行った高齢者総合機能評価について、ケアマネージャーや家族との間で情報の共有はありましたか？

A・神谷

ケアマネージャーさんとは初対面であり、どういった情報を伝えていいのか分からず、手探りの状態でした。入退院を繰り返しているものの、家族(息子さん)の心不全に関する理解は不十分であると感じました。そのため病態について時間をかけて説明し、服薬・体重管理の大切さを繰り返し話しました。病院よりも自宅のほうが、家族も落ち着いて話をきくことができ、理解しやすいのではないかという印象があります。今後は顔の見える関係を築いて多職種の方々と情報を共有していきたいと思っています。

<症例>超高齢の女性 要介護5

<疾患>慢性心不全、アルツハイマー型認知症

<現在の状況>

心不全悪化による入院を抑制できたが、認知症症状悪化に伴い、ADLが低下した入浴はしておらず、息子が清拭している

1年以上外出していない

福祉用具は電動ベッド・車椅子・ポータブルトイレ使用

2週毎の訪問診療、週1回の訪問リハビリを行っている

→ほぼ自力での車椅子移乗、10分以上の座位保持可能となった

司会(今川): 上記の症例について会場の皆さんでしたら今後、どのように対応したらいいと思うか意見ををお願いします。

Q・訪問看護師

ずっと入浴していませんが、訪問入浴については検討しましたか。心不全の患者さんであり、慎重になっていましたか？

A・神谷

いい質問ですね。訪問入浴を勧めましたが、息子さんが拒否していました。ただ入浴せず、清拭だけであるのに全く臭いを感じませんでした。よほど息子さんが丁寧にされていたと思われま。心不全患者さんであります。入浴はリスク管理をしながら行いたいと思っていました。

Q・社会福祉士

(Zarit 介護負担尺度で)息子さんの介護負担量が6ヶ月・12ヶ月後に増大しているようです。息子さんの介護負担の軽減は、どのように考えていましたか？

A・神谷

息子さんは疲れていると感じました。今年の夏、予定通り訪問診療に伺った際に息子さんが不在でした。患者さん本人にきくと喧嘩をしたとのことでした。食事をとっていないと。ことで、一時コンビニで食べ物を買ってきたりもしました。後日、息子さんと話をしましたが、介護の負担が大きく、金銭面にも悩みがあったそうです。介護保険を勧めましたが、あまり乗り気ではありませんでした。その半年後に認知症症状が出現しやと申請にこぎつけました。もっと早くに何とか介護保険を導入できればよかったですと思います。

Q・保健師

息子さんが一人で見ており、介護負担が大きい。息子さんが倒れたら生活も成り立たない。経済的な理由で介護保険(訪問看護)の導入が出来なかったのですか？ 狭い空間で、人との

関わりがないと認知症が進行しやすいと思いますが、その辺りはどう考えていましたか？

A・神谷

ほぼ一つの部屋でずっと過ごしている状況。高齢の入院患者さんは、窓のない部屋にいると容易にせん妄状態におちいります。何とか外に出していきたいと考えていました。そして家族の介護負担もますます大きくなることは心配していました。ただ息子さんがサービス利用に消極的であり、難しいと考えていました。

Q・訪問看護師

金銭的に困っていたようですが、お金の支払いについて滞ったことはありませんか？ 私
も実際、引き落としが出来なかったケースがあります。

A・神谷

「年金が入るまで待ってほしい」と言われたことはあります。生活保護になることも提案しました。近くの社会福祉協議会に相談したところ、他に土地が財産としてあるため、生活保護は該当しないと言われました。当初、患者さん本人は、夫が大事にしてきたので売るのは嫌と言われてしまいました。その後時間をかけて何とか説得し、土地を売ることに了承してもらいお金が出来ました。

Q・ケアマネージャー

先生がコンビニに食べ物を買に行くなんて、すごいですね・・・。

地域で支えるために民生委員などを通して地域医療を考えていくことが必要だと思います。地域からの声があれば、介護保険の導入ももっと早くなったのではないのでしょうか。

先生のように地域の声にも耳を傾けようとする医師がいれば地域としてもとても有難い。

A・神谷

社会福祉協議会に相談しましたが、正直、土地や金銭の絡む話は自分でマネジメントすることができませんでした。あの時はどうしようかなと思いました。こういった場面でも地域包括ケアシステムが重要だと感じました。今後は顔の見える連携を行っていききたいと考えています。